

目次

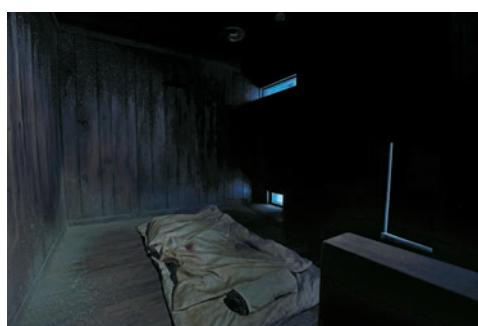
- | | |
|---|--------------------------|
| P1 黒崎彰 暗黒の世界を撮る～「再現 重監房」～ | P3 2025年度ウォーキングツアー開催について |
| P2 人間のやさしさと強さを見つめて | P4 2024年度 来館者統計 |
| 黒崎彰写真展『群像』～ハンセン病療養所より～ | P4 お知らせ |
| P2 『重監房跡の発掘調査』を増刷しました | P4 お客様の声（来館者アンケートより抜粋） |
| P3 「群馬県ハンセン病パネル展」に資料提供&講演をしました
—視覚障がい者向け音声コードと貸出パネルのご紹介— | P4 ご利用案内・アクセス |

黒崎彰 暗黒の世界を撮る～「再現 重監房」～

この春、重監房資料館では、写真家・黒崎彰さんに依頼をして、「重監房」の実寸大ジオラマ（第一展示室）の撮影を行いました。納品された作品群は、今後、重監房資料館の財産として、展示パネル、リーフレットや広報誌、講演会資料などで広く活用していく心算ですが、今回、その一部を紹介いたします。

写真は「光」の芸術ですが、今回は、難しさを承知で、あえて「明かり」を絞り、「重監房」の暗さ、重々しさについて、黒崎さんに表現していただきました。ここに紹介した写真に「暗くて良く見えないじゃない？」という印象をもたれる方もいるかもしれません、心の目をこらして、作品の意図したところを感じていただければ幸いです。

大きく示したのが、実寸大の「重監房」外観写真になります。これが第一展示室のメインになるジオラマです。ここでは、そびえ立つ「重監房」の外壁をスクリーンにみたて、複数の入所者証言をもとに、過酷な収監の実態をリアルに再現した映像「再現 重監房」をご覧になります。その手前には1／20スケールの模型が位置し、1947年の国会質問において「恐るべき重監獄」と評された「重監房」の建物全容を知ることができます。



2枚目が、堅く門で閉じられた「重監房」の大扉の様子です。扉の高さは、ゆうに六尺を超えてから、外壁の異様な高さについても、この写真から判断できるでしょう。そして大扉の内側には地獄が実在していました。見学者には、この大扉から内部に入ってもらい、「再現 重監房」で観た収監を疑似体験してもらうことになります。

3枚目は、復元された「房」の内部の写真です。薄暗い室内にせんべい布団が敷いてあるのが見えますね。4畳ほどの広さの板張りの「房」には、電気の設備はあったのですが通電していませんでした。そこは昼でも差し込む光がほとんどない暗黒の世界でした。そんな暗闇に500日以上も閉じ込められていた人がいたのです。そして極寒の草津ですから、冬期を中心に23名の方が亡くなっています。にわかには想像できない、耐えがたい「暗さ」「冷たさ」をこの写真から感じ取ってほしいのです。

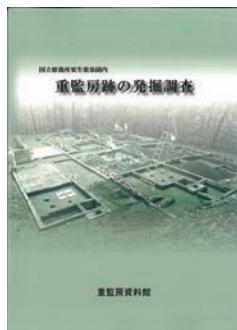
ご希望があれば、スタッフの立ち会いのもとで、見学される際に「房」の中に入っていただくことも可能です。是非、ご来館の折、資料館スタッフにお申し出ください。（黒尾 和久）

人間のやさしさと強さを見つめて 黒崎彰写真展「群像」～ハンセン病療養所より～



重監房資料館のレクチャールームで常設展示をしている鶴雄二さん、藤田三四郎さん、山下道輔さんらのお姿を写した黒崎彰さんの作品『群像』の額装写真13枚を、笛吹市春日居郷土館・小川正子記念館にお貸しして、「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」にあわせた2025年6月18日（水）～7月13日（日）の会期で上記の写真展が開催されましたのでご報告いたします。

関連して、重監房資料館の出張企画として、『写真家・黒崎彰さんによるトークショー』を重監房資料館部長の進行で、小川正子記念館に隣接する春日居あぐり情報ステーションで、7月5日（土）に開催しました。



『重監房跡の発掘調査』を増刷しました

2024年秋に在庫切れになっていた報告書『重監房跡の発掘調査』を増刷いたしました。

メイン展示「重監房再現」のエビデンスを確保する目途で2013年に行われた発掘調査の成果は、当初の想定を超える多くの出土遺物を得て、重監房資料館の財産となっています。正式名称「特別病室」という欺瞞、にわかには信じがたい運用が行われた懲罰施設「重監房」の実在、そして凄まじい人権侵害をうけた収監者の悲惨を、考古学的手法によって掘り起こした物証によって、現代社会に広く訴える真相究明の一冊が本書です。この機会に、入手をご希望の方がおられましたら、是非、当館までお問い合わせください（本誌無料：送料負担をお願いしています）。

私たちは、増刷のタイミングが、2024年8月16日の文化庁「近世・近代の埋蔵文化財保護について（報告）」の公開に重なったことに注視しています。1998年の「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について（通知）」以後、事実上、発掘調査による記録保存が困難になった近代の地下痕跡についても、文化財保護の対象にするという方針が、この報告に盛り込まれたからです。今後、埋蔵文化財行政を司る各都道府県がどのような対応をとるのか、考古学関係者の注目を集めているし、どうあるべきかの議論も活性化してきています。

この近代の埋蔵文化財をめぐる昨今の動向は、重監房跡の発掘調査を根拠に啓発活動を行う重監房資料館とも無関係ではありません。現地調査は、2013年に、いわゆる「ハンセン病問題基本法」「第十八条」の「国は、ハンセン病の患者であった者等の名誉の回復を図るため、国立のハンセン病資料館の設置、歴史的建造物の保存等ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識の普及啓発その他必要な措置を講ずる（以下略）」を根拠に、厚生労働省の責務において、重監房跡の「史跡」としての保全と活用、二館目の「国立のハンセン病資料館」（重監房資料館）の建設、そのメインとなる「重監房再現」ブースの実現のために、周到な手続きを踏んで実施され、その成果が報告書に収められました。しかし当時を振り返ると、「円滑化通知」による指導もあり、重監房跡は、近現代の遺構であることから、文化財保護法の境外とされ、その法下での「遺跡」「史跡」としては周知されないと、やや残念な結果も受け入れなければなりませんでした。

しかし、重監房跡の発掘調査から10年を経た今、方針を転換した文化庁報告が提出され、その趣旨を踏まえるならば、ハンセン病療養所に遺された近現代の地下遺構も、今後は埋蔵文化財保護の対象になりえることになりました。

ハンセン病問題対策協議会での検討が継続しているハンセン病療養所の永続化や将来構想に関連して、療養所内の歴史的建造物や史跡等の保存と活用に関する議論をより一層活発にしていく必要があると、私たちは考えていますが、その際、「基本法」に触れられた「名誉の回復」の事業として重監房跡で試行されたような考古学的手法による調査も、今後は「国民共有の財産」である文化財保護と活用の観点も付加されたうえで、療養所内において、より積極的に行われるべきではないでしょうか。

ハンセン病療養所の歴史遺産の保存と活用が、文化財保護の価値観と一体となり強力に推進される日が来ることを、私たちは信じます。鶴雄二さんをはじめとした忘却がたき人々の熱意と献身の賜としての先駆的な成果が凝縮されているのが『重監房跡の発掘調査』です。向後のハンセン病療養所の史跡保全・活用の担い手には、本書の不足を補い、るべき姿を実現するために、さらに活用していただきたいと思うのです。（黒尾 和久）

重監房資料館の2025年の企画展は、9月末から、年度をまたぎ、来年6月末までの会期で、改めて『重監房跡の発掘調査』の成果について、目下の近現代考古学に関するホットな動向も念頭におきつつ、皆様との情報共有をめざして、現在、鋭意準備中です。

「群馬県ハンセン病パネル展」に資料提供＆講演をしました

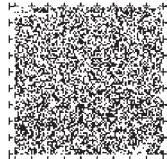
—視覚障がい者向け音声コードと貸出パネルのご紹介—

群馬県では、6月22日の「らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日」に合わせて2009年から「群馬県ハンセン病パネル展」を開催しています。今年は15回目で、6月18-20日に開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止等で中止になった年もありましたが、この3年間、当館からは特別病室と重監房資料館の展示内容に関するパネルを、栗生楽泉園からはパネルと実物資料を提供しています。当館の所在地である草津町は群馬県の端に位置するため県庁所在地の前橋まで約70kmあります。しばしば「資料館まで行きたいけれど遠い」というお問い合わせをいただくので、前橋で当館や重監房についてのパネルをご覧いただける「群馬県ハンセン病パネル展」は広く知っていただくための大切な機会のひとつと捉えています。

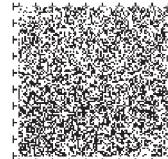
会場となる県庁入口のエントランスホールは、天井が高く、開放感のある広い空間です。当館では、印刷機や収納スペースの都合上パネルサイズは大きくてもA1だったのですが、A1サイズのパネルを「群馬県ハンセン病パネル展」の会場で見ると…毎回小さいと感じていました。そこで今年は急遽A0サイズに作り直しました。加えて、より多くの方々に伝わるようにパネル本文を読み上げる音声コードを作りました。

特別病室（通称重監房）について

- 1 ハンセン病と強制隔離政策 2 懲戒検束権と特別病室
3 跡地の保全



- 2 懲戒検束権と特別病室
3 跡地の保全



このパネル内容を
左の音声コードから
お聴きいただけます



(左) 今までのA1サイズのパネル
(右) 今回サイズアップしたパネル



視覚障がい者向け
音声コード
〔Uni-Voice〕

スマートフォンアプリ『Uni-Voice』を利用してパネルの内容等を音声で聴くことができます。アプリは無料です。スマートフォンで『Uni-Voice』を検索して左のアイコンのアプリをダウンロードするとスキャン画面が出ます。上記コードをアプリで読み込むとパネル「特別病室（重監房）について」の内容が音声で流れます。

また、今回初めての試みとして、会場で40分程度の短い講演を2回実施しました。毎年の開催をお手伝いするうえで展示がマンネリ化することがないように工夫を凝らしております。「来年のことを言えば鬼が笑う」と言いますが、本文を読んでくださっている皆さまが、「県庁へ行こう！」と思ってくださるような内容を仕掛けたいと今から考えております。草津は遠いけど…という方、前橋での「群馬県ハンセン病パネル展」でお会いしたいと思います。来年6月22日前後の予定を空けておいてくださいませ !!

なお、本パネルは群馬県以外にも貸し出しております。先述したようにA1、A0と2つのサイズがありますので会場の大きさに合わせて対応できるようになりました。パネルと一緒に講師派遣も承っております。講師派遣にかかる費用は、原則的に当館が「普及啓発機能」の実践として負担いたします。人権啓発ツールとして、当館のパネルや講師派遣をご活用ください。ご依頼、お問い合わせのお電話をお待ちしております。（鎌田麻希）



展示会場での講演の様子

写真手前の机には配布資料が置かれています

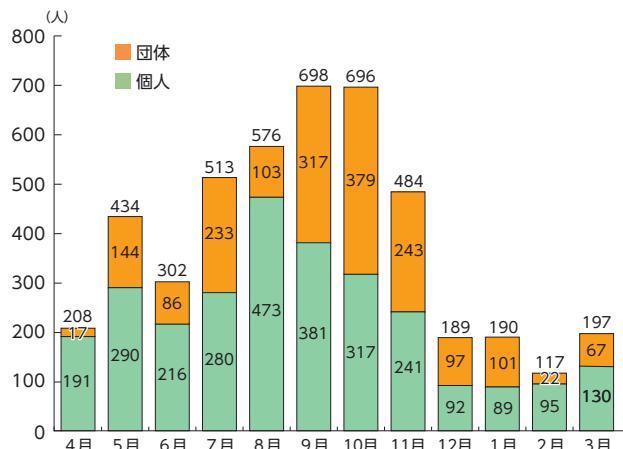
2025年度ウォーキングツアー開催について

本年度も、ウォーキング・ツアー「初めてのハンセン病史—もうひとつの草津温泉—」を開催します。草津町から重監房資料館までのハンセン病にまつわる史跡を徒歩でたどり、重監房跡や楽泉園歴史館、資料館などを見学します。

- 開催日：9/20(土)、9/27(土)、10/11(土)、10/18(土) 集合時間は9時30分頃の予定
- 定員：7名(先着順) 5時間程度のハイキング可能の体力があること。小雨決行。

ご予約、お問い合わせは、当館までお電話をお願いいたします。(TEL：0279-88-1550)

2024年度来館者統計



2024年度入館者数

延べ	4,604人
1日平均	15.1人
開館以来延べ	56,256人

ホームページアクセス数

2024度	36,817件
開館以来延べ	476,216件

お知らせ

■臨時休館のお知らせ

9月2日（火）～9月7日（日）は、全館燻蒸・消毒のため、臨時休館とさせて頂きます。

ご了承の程、よろしくお願い申し上げます。

■2025年度の企画展について

2025年度の企画展は、9月下旬からの開催を予定しております。展示内容、期間など詳細は、当館ホームページにて、お知らせいたします。

■【お詫び】館内設備の不具合について

開館10年が経ち、さらに大雪や猛暑の極端な異常気象が続く中、重監房資料館の展示・映像機器、空調など、館内設備の故障が続いている。一日も早く通常通りにご利用頂けるように対応を急ぎます。来館者の皆様には、見学して頂くうえで、大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

◎重度知的障害のある娘と訪ねました。障害や能力で人を分けてはいけないと思い、特に教育の場で、共に生きる社会は、共に学ぶ教室からつくられる、と思っています。湯之沢地区で療養しつつ暮らしていたのに、わざわざ4kmも温泉を引いて、まるでこちらのほうがいいですよと言って、栗生楽泉園に住まいを強制したことが、障害のある子のためにと学ぶ場所を分ける、あなたがたのために、と分けていくことと重なりました。やはり、人を分けてはいけないと、資料館を拝見して、その思いを強く持ちました。

（東京都、49歳・女、パート）

◎一人ひとりの人生にまでさかのぼって調べ、展示されていることに敬意をもちました。感謝もしています。今回の来館を機に勉強していきたいと思います。また来たいです。

（静岡県、56歳・男、教員）

◎来年度から法律職に就きます。大学で憲法を中心に学んでおり、ハンセン病の一連の紛争は知っていましたが、より現実的に、どのような苦しみと闘争があったかを更に知り、人権問題へのアンテナを絶やさぬようにしたいと思いました。

（神奈川県、24歳・男、大学院生）

◎近代史の負の部分を解説したよい展示だと思います。重いテーマなので、広報は難しいと思いますが、多くの方に知られると良いと思います。

（大阪府、53歳・男、自営業）

◎人間の命の大切さ。日本の障害者たちへの考え方が今の世の中でも囲み（差別）をつくろうとしていることを感じる。

（岐阜県、58歳・女、看護師）

◎なんだか分からぬ病気はおそらく思うはあるだろう。コロナのときも、同様だったろうが、病気の原因もわかって、治療もできるようになったというのに、優生保護法ができたのは、1996年だという。改善のおそがこの国、なかなか一度決めたことを変えようとしない実状とおもう。

（茨木県、49歳・男、看護師）

ご利用案内・アクセス

■開館時間 4/26-11/14（通常期）：9:30～16:30（団体は要予約）

11/15-4/25（冬期）：10:00～16:00（団体は要予約）

■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

■入館料 無料

■交通案内 鉄道・バス利用の場合 JR吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約25分

草津温泉バスターミナル下車 タクシー約7分、徒歩約45分

車利用の場合 渋川伊香保ICより約2時間10分 上田菅平ICより約1時間50分

（草津方面からお越しの場合は楽泉園の正門を入らず、その先200mの未舗装路をお入りください。）

重監房資料館「くりう」第28号【季刊】

発行日：2025（令和7）年 7月27日／企画・編集・発行 重監房資料館／URL：<https://www.nhdm.jp/sjpm/>

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553